

資料5)

| 語句                                  | 教師のはたらきかけ  | 児童の反応   | 反省など  |
|-------------------------------------|--|---|---|
| 映える<br>(映写)<br>(映画)<br>(上映)<br>(映像) | <ul style="list-style-type: none"> <li>「映える」の映は別になんと読むか。</li> <li>エイと読んだときの熟語は。</li> <li>それぞれの熟語の意味は。</li> <li>映にはどんな意味があるか。</li> <li>「写す」はどう読むか。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>エイ</li> <li>映画、映像、反映。</li> <li>(発表)</li> <li>何かをうつす。</li> <li>ウツす、同じような意味。映写という熟語がある。</li> <li>似た漢字を組み合わせた熟語。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>意味の確認。</li> </ul>  |
| (移す)                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>「映写」はどんなつくりの熟語か。</li> <li>「写」はどんなとき使うか。</li> <li>意味は。</li> <li>「映」はどんなとき使うだろうか。</li> <li>意味は。</li> <li>「移す」も「うつす」と読むが……。</li> <li>「夕映え」はどう読むか。</li> <li>「ゆうはえ」とは読まないか。</li> <li>「はえる」を別な漢字であらわそう。</li> <li>「見栄え」はどう読む。</li> <li>どんな意味か。</li> <li>これらの例文から考えよう。<br/>(例文を与える。)</li> <li>短文を作ってみよう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>写真を写す。字を写す。まねをするという感じ。写生もそんな感じだ。</li> <li>かがみに映る。スクリーンに映す。</li> <li>べつなところに見えるようにすること。光に関係がある。日がついているから光に関係があると思う。</li> <li>意味が全くちがう。</li> <li>「ゆうばえ」</li> <li>熟語になると下の音がにごる場合がある。あまがさなどもそうだ。</li> <li>生える、栄える。</li> <li>みばえ。</li> <li>見てさかん、見るとさかん。</li> <li>(例文をもとに話しあう)</li> <li>(短文を作る)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>熟語のなりたち目を向けさせた。</li> <li>表現は的確ではないが大体つかんでいるようなのでよしとした。</li> <li>同訓異字のとりあつかい。</li> <li>単に二つの漢字の意味をあわせたのみである。これは新出語句における意味類推時のおける一つである。</li> </ul> |

が文脈の中でどのように生きて働いているかをとらえさせることが必要である。

(ウ) 単元の終末段階

語句の量を増し、範囲を広げるといふ点からは最も効果の期待できる段階である。この段階の指導においては、一つの語句を足場に、その周辺語句を意味の面からと、構成の面からの両面からとらえる必要がある。特に同じ漢字を含む熟語集め、同じ構成になっている熟語集め、複合語集め、派生語、

転成語集めなど語句の構成、機能の面に目をむけた学習を展開することが効果的である。

この学習を取り入れることは、単に多くの語句を経験させることのみにとどまらず、語句の意味を正しくとらえることはもちろんのこと漢字の表意性や構成にも目をむけ、語句の意味を理解しようとする態度が培われるとともに語句に対する興味、関心をも高めることができるものと思われる。

③ 語句学習カード

児童が自主的に語句学習に取り組むようにすることは、語句指導のねらいの一つでもある。この点からも学習カードの使用は効果的である。

④ 語句指導カード

指導カードを作成、使用することにより語句の系統的指導が可能になってくる。

児童の語い力を高めるためには、どの語句を学習させるべきかをほつきりとらえる必要がある。そして、それぞれの語句をばらばらに学習させるので

資料 (学力テストにおける語句に関するテスト)

| 区分      | 実践対象学級<br>(正答率%) | その他の学級<br>A (%) | その他の学級<br>B (%) |
|---------|------------------|-----------------|-----------------|
| 55年3月実施 | 53.4             | 58.3            | 57.5            |
| 55年9月実施 | 73.8             | 68.8            | 66.9            |
| 有効度指数   | 43.8             | 25.8            | 22.1            |

〈語句の意味の類推力テスト〉 55年9月実施

| 区分      | 実践対象学級 | その他の学級<br>A | その他の学級<br>B |
|---------|--------|-------------|-------------|
| 正答率 (%) | 47.8   | 30.0        | 25.0        |

〈既習語句の意味理解テスト〉 55年9月実施

| 区分      | 実践対象学級 | その他の学級<br>A | その他の学級<br>B |
|---------|--------|-------------|-------------|
| 正答率 (%) | 67.4   | 38.7        | 33.9        |

(1) 国語科学習指導要領「言語事項」

(2) 語い指導と語い指導の関連

(一) 今後の課題

① 国語科学習指導要領「言語事項」

(1) の指導と語い指導の関連

(2) 語い指導と作文指導との関連

は、単に意味関係だけによるつながりだけにはとどまらず、語句の構成、機能面からのつながりを重視した指導を行う必要がある。このことは単に語句の量を増し、範囲を広げることのみに効果があるばかりでなく、語句指導の大切なねらいである。児童が積極的に語句にかかわっていくこうとする「児童の日本語に対する意識」をも高めることに直接がかかわっていくものと思われる。